2022年度 アスパラガス病害虫防除暦【ハウス作型】

安全･安心な農産物生産のために 防除･使用基準を厳守しましょう

JA中野市営農センター

散布日	散布回数・時期		散布薬剤(水 100ℓ当り)		使用時期	散布量(ℓ)	対象病害虫	注　意　事　項
／	1	立茎開始３日前	アミスター２０フロアブル	50ml	前日	200	茎枯病・斑点病・褐斑病	**茎枯病の多発圃場は、収穫打切後、全刈りを実施し、すぐに第１回目の薬剤を畝面全体に散布し、乾いてから５cm以上の盛り土後、芽の高さが２～５cm 程度のときに２回目の薬剤散布。その後５日以内に３回目の薬剤を丁寧に散布する。** ※アミスター20 フロアブルは、①展着剤は使用しない。②薬液が乾きにくい条件下(夕方･曇天時)では使用しない。③雨露等でアスパラガスがぬれている状態では使用しない。④薬剤耐性が生じやすいので連用しない
／	2	第１回散布後 ５日以内	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) ベンレート水和剤	20ml 50g	前日	200	茎枯病・株腐病	
/	3	第２回散布後 ５日以内	展着剤（ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ） ダコニール１０００	20ml 100ml	前日	200	茎枯病・斑点病 褐斑病・疫病	
／	4	５月下旬	展着剤(アビオンE) モスピラン顆粒水溶剤 ベンレート水和剤	100ml 25g 50g	前日 前日	200	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類・ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ ｶﾒﾑｼ類・茎枯病・株腐病	
／	5	６月上中旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) カスケード乳剤 コサイド 3000	20ml 25ml 50g	前日 前日	300	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ・ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ ｱｻﾞﾐｳﾏ類・茎枯病 斑点病・褐斑病	
／	特別散布 疫病対策		展着剤（アビオンE） フォリオゴールド	100ml 100ml	前日	300	疫病	土壌病害（疫病）が心配される園地で株元を中心に散布する。
／	6	６月下旬	展着剤（ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ） プレオフロアブル	20ml 100ml	前日	300	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ・ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ ﾖﾄｳﾑｼ・ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ	病害の発生がある場合は、展着剤を除き、アミスター20 フロアブルを加える。
／	7	７月上中旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) ダントツ水溶剤 シグナム WDG	20ml 25g 66g	前日 前日	300	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類・ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ ｶﾒﾑｼ類・ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ 茎枯病・斑点病・褐斑病	草勢維持のため状況により、薬剤散布と併せて７～8 月はアミノメリット特青 500 倍の葉面散布を行う。 （その場合展着剤不要）
／	8	７月中下旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) コテツフロアブル コサイド 3000	20ml 50ml 50g	前日 前日	300	ﾊﾀﾞﾆ類・ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ・ﾖﾄｳﾑｼ ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ・ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ 茎枯病・斑点病・褐斑病	
／	特別散布 疫病対策		展着剤（アビオンE） フォリオゴールド	100ml 100ml	前日	300	疫病	土壌病害（疫病）が心配される園地で株元を中心に散布する。
／	9	８月上中旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) ダントツ水溶剤 ベンレート水和剤	20ml 25g 50g	前日 前日	300	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類・ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ ｶﾒﾑｼ類・ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ 茎枯病・株腐病	**ダニの発生が多い場合は、コロマイト乳剤(1000 倍・前日まで・2 回以内)を散布する。**
／	10	８月中下旬	展着剤（ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ） ディアナＳＣ	20ml 40ml	前日	300	ｱｻﾞﾐｳﾏ類・ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ	斑点病が発生している場合はラリー水和剤(4000 倍・前日まで・2 回以内)を散布する。
「次年度の収量確保に向けて」　9 月以降は薬剤散布と併せてメリット赤（500 倍希釈）を葉面散布（展着剤不要）する。また、草勢の維持向上のため１０月以降は雨よけビニールを外しましょう。								
／	11	９月上中旬	アミスター20 フロアブル モスピラン顆粒水溶剤	50ml 25g	前日 前日	300	茎枯病・斑点病 褐斑病・ｶﾒﾑｼ類・ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類・ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ	薬害回避のため展着剤は使用しない
／	12	９月中下旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) プレオフロアブル ベンレート水和剤	20ml 100ml 50g	前日 前日	300	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ・ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ﾖﾄｳﾑｼ・ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ 茎枯病・株腐病	収穫を終了している場合はベンレート水和剤に代えて ic ボルドー66D（倍）を散布する。 メリット赤を混用する場合は展着剤不要。 また、凝固する恐れがあるため、PK ゴーは ic ボルドーと混用しない。
／	13	１０月上中旬	展着剤（アビオンE） IC ボルドー66D	100ml 2 kg	収穫終了後	300	茎枯病	メリット赤を混用する場合も薬剤持続性を高めるため、展着剤アビオンＥを添加する。 また、凝固する恐れがあるため、PK ゴーは ic ボルドーと混用しない。

(注) 1. バーナーによるアスパラガスの残茎や土壌表面の焼却は茎枯病の予防効果があり、毎年発生の多いほ場は実施する。
2. 春収穫期間中、害虫の発生が見られる場合は、登録内容に基づきウララ DF、アディオン乳剤を散布する。
3. 雨の多い場合は散布間隔をつめる
4. 散布間隔があく場合（収穫打ち切りの早い園地等）や連続降雨後の定期防除の合間の防除に、コサイド 3000 の 2000 倍液を散布する。
5. 収穫打切後すぐビニールをはがさずに 8 月下旬頃まで雨よけをすることにより、茎枯病等の病気が軽減される。
6. PK ゴーと薬剤を同じ容器に少量の水で溶かすと凝固する恐れがあるので、別の容器に溶かしてから散布する。

当防除暦の複製･コピーを禁止します